

発議案第23号

東葉高速鉄道の通学定期の割引率引上げの早期実現を求める決議について

上記の発議案を別紙のとおり会議規則第14条第1項の規定により提出します。

令和3年11月29日

八千代市議会議長 大塚裕介 様

提出者	八千代市議会議員	林	隆	文
賛成者	八千代市議会議員	林	利	彦
	同	木	下	映
	同	塚	本	路
	同	山	口	勇
	同	伊	原	忠
	同	菅	野	文
	同	三	田	登

提案理由

東葉高速鉄道の通学定期の割引率引上げを早期に実現するため、今後の積極的な働きかけを強く求める。

これが、本案を提出する理由である。

東葉高速鉄道の通学定期の割引率引上げの早期実現を求める決議

東葉高速鉄道は、平成8年4月の開業以来、市民の通勤・通学等における身近な交通手段として利用され、令和2年度決算では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大及び2度にわたる緊急事態宣言発出等に伴う経済・雇用情勢の悪化、外出自粛やテレワークの増加等の影響を受け、大幅な減収減益となりながらも、11期連続で経常利益及び当期純利益を計上している。

しかしながら、依然として多額の有利子負債を抱え、その償還が経営を圧迫しており、高額な運賃が利用者にとって大きな負担となっている。

以前から服部市長は、通学定期の割引率引上げを求める市議会からの意見に対し、東葉高速鉄道に提案して議論を重ねてまいりたいと述べており、本年5月の八千代市長選挙では、東葉高速鉄道の通学定期の割引率引上げを公約に掲げ、再選された。直後の市議会の一般質問では、「子育て世帯の多くが求める経済的負担の軽減や東葉高速鉄道の利用促進のためにも、任期4年のうちに割引率の引上げを実現したい」との答弁があったものの、現在に至るまで具体的な道筋は見えてきていない。

通学定期は通勤定期と異なり、その費用の多くが家計の負担となることから、更なる割引率引上げを望む市民の声は切実である。また、人口減少が見込まれる将来を見据え、安心して子育てを行うことができる環境を整備し、幅広い世代の流入、定住の促進を図る上でも、通学定期の割引率引上げは必要である。

よって、東葉高速鉄道の通学定期の割引率引上げを早期に実現するため、今後の積極的な働きかけを強く求めるものである。

以上、決議する。

令和3年12月6日

八千代市議会